

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【英 語】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」などで構成し、複数の単元のまとめである「Stage Activity」に向けて、スモールステップで積み上げてゴールにつなぐ構成となっている。特に、「扉」では、単元を貫く問いを通して題材への興味を高め、「Unit Activity」では、各パートの「Activity」で用いた表現を生かして、目的・場面・状況を意識した言語活動に取り組む工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit」の活動目標が明確に示してあり、学習する前に「Preview」を聞くことで、目的・場面・状況を想起しやすくしている。「Read and Think」ではまとまった文を読み、自分の考えを表現することができる工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、表示されたページ画面に触れるだけで内容ごとに拡大表示されるとともに、「書き込み」画面を開くと、「リンクの追加」ができる機能が備えられ、個別学習に必要なデジタル資料を収集できるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、本文の内容に関連した「Practice」で文構造を理解し、「Activity」において自己表現活動につながる構成になっており、段階的に言語材料を身に付けられるような工夫が見られる。</p>	<p>2 年 P29～P36 P40 P29 P36</p> <p>2 年 P 9 P12～P15</p> <p>2 年 P22, P23</p> <p>2 年 P10</p>
9 開隆堂出版	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Programを「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review &amp; Retell」「Action」で構成し、新出表現を繰り返し取り扱うことで確実な基礎・基本の定着が期待される。特に、「Scenes」では、マンガ形式や朱書きで新出表現が導入されており、巻末のCAN-DOリストが「とびら」に示されている表現とリンクしていることで、自身が1年間を通して身につけた表現がわかるという工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Scenes」ごとに日本語のタイトルがつけられており、新出表現を用いた対話の内容理解がしやすくなっている。単元末の「Review &amp; Retell」では、自分の言葉で表現する機会を設定するといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、本文のシートだけでなく「学習者支援」のシートが設定され、精選された情報が大きく表示されたり、「ワークスペース」のアイコンから四線ノート等を活用できたりするなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、言語材料が視覚的に理解できる「Scenes」から始まり、「Listen」「Speak &amp; Write」の活動で繰り返し言語材料を身に付けられるような工夫が見られる。</p>	<p>2 年 P65～73 P66, P65 P161</p> <p>2 年 P 8, P 9 P14</p> <p>2 年 P31</p> <p>2 年 P9</p>

15 三省堂	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「とびら」「Scene」「Goal Activity」で構成し、「Scene」で学習した内容を活用する「Goal Activity」が設定され、さらに複数のLesson毎に統合的な言語活動に取り組む「Project」が設定されていることで段階的に学習できる。特に、「とびら」では、学習の見通しを立て、題材やテーマへの興味・関心を高めたり、「Small Talk Plus」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりすることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を読み取る形で「Take Action!」が設定されている。「For Self-study」では、学習者が抱くであろう悩みについて学び方を提案し、個に応じた学びを支援するといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、表示画面に触れるだけで内容が拡大表示されるとともに、拡大した画面の左下には「New Words」のカードが表示され、クリックすると新出英単語が音声で読み上げられ、繰り返し学習できるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、「Check」の二次元コードを活用することで文法事項を繰り返し練習し、文構造に慣れ「Listen」「Speak」の表現活動につなげることができるような工夫が見られる。</p>	<p>2年 P15～23 P38, 39 P27 P33 2年 P13 P4, P44 P86, P114 2年 P58 2年 P8</p>
17 教育出版	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「扉」「Part」「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、Partごとの「Think &amp; Try!」では、会話の続きを考えながら演じさせ、単元末の「Read &amp; Try!」では、学んだことを説明する発展的な学習ができるようになっている。各Partにおいて小学校で学んだ単語も表記されるといった工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、「WAP (word &amp; phrases)」から語句の学習ができるほか、画面右端に「フラッシュカード」「思考ツール」など、多様な学習支援のアイコンが設けられ、自分の学習状況に応じて設定を変更できるなど学習者に配慮した工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、「Tool Kit」で慣れ親しませ、「Let's Listen」及び「Think &amp; Try!」の活動で言語材料の活用ができるような工夫が見られる。</p>	<p>2年 P23～32 P32 P20 P44, 45 2年 P13 P17, P14 2年 P34 2年 P13</p>

38 光村図書 出版	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Goal」で構成し、「読む」「聞く」「書く」「話す（やり取り、発表）」の様々な領域における言語活動が準備されており、繰り返し英語を使いながら知識・技能の習得を図ることができる。特に、各Unitと帯教材「Story Retelling」を並行して学習することで、即興で話す力を高めたり、「Goal」では、登場人物になりきって発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、帯活動に有効な「Retelling」が掲載され、写真・イラストやキーワードを用いて、自分の言葉で伝える機会が設定されている。各Unitでの表現活動に役立つ言語材料をまとめた「Active Words」がテーマごとに分類されるなどの工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のためのアイコンが平易な言葉で表示され、操作が分かりやすくなっているとともに、サポートのアイコンを開くと、「見やすさ」「読みやすさ」「使いやすさ」を自分で設定することができるなど学習者に配慮した工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、学習した言語材料を振り返りながら、各Partにおいて4技能の言語活動にバランスよく取り組むことができるような工夫が見られる。</p>	<p>2年 P19～26 P122, 123 P57</p> <p>2年 P122～P129 P130～P136</p> <p>2年 P92</p> <p>2年 P10, P11</p>
61 新興出版 社啓林館	<p>(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「とびら」「Part」「Read / Listen &amp; Think」「Think &amp; Speak / Write」「Let'sシリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料に合わせて設定されており、場面に応じた英語力を育成できる。特に、「Let'sシリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション能力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit Goal」では、技能の明確な目標が示されると共に、目標に対する自己評価ができるような工夫がされている。Partごとに掲載されている「Enjoy Chatting」では、即興でのやりとりを促す工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のアイコンについての説明を「?（ヘルプ）」で一覧できるとともに、「暗記ペン」「バインダー」等が設けられ、英単語の暗記や自分の考えをバインダーで追加することができるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、各Partに「Listen」「Speak」「Write」の活動が設定され、言語材料に繰り返し慣れ親しませ、「Express Yourself」で自己表現につながるような工夫が見られる。</p>	<p>2年 P33～43 P42, 43 P46～48</p> <p>2年 P5 P6</p> <p>2年 P20</p> <p>2年 P7</p>